

正戸 里佳(ヴァイオリン)

広島市に生まれ、17歳でパガニーニ国際ヴァイオリンコンクール第3位を受賞した若手ヴァイオリニスト正戸里佳は、長くパリを拠点にしながら、国際的に活動を展開している。幅広いレパートリーを持つが、特にフランス音楽には定評があり、「正戸里佳のドビュッシーとラヴェルには特別な音がある」と讃えられている。

正戸里佳が一番大切にしているのは“歌”である。高度なテクニックと深い音楽性に支えられた“歌”が、世界の聴衆を魅了している。

広島市出身。3歳よりヴァイオリンを始め、わずか10歳で、ルーマニア第二の都市ヤシにてモルドバ・フィルハーモニーとブルッフ作曲ヴァイオリン協奏曲を共演し大好評を博した。その模様はルーマニア国営ラジオでも放送された。さらに13歳でポーランド国立クラクフ室内管弦楽団とメンデルスゾーン作曲ヴァイオリン協奏曲を共演。そして2006年には17歳でパガニーニ国際ヴァイオリンコンクールにて第3位を受賞し、国際的な話題となる。また2001年には毎日放送で、2007年には中国放送で正戸里佳を取り上げたドキュメンタリー番組が制作・放送されるなど、10代の頃から大きな注目を集めてきた。



広島大学附属中学校卒業後、桐朋学園女子高等学校音楽科へ進学し首席卒業、同大学ソリスト・ディプロマを経て2009年に渡仏。パリ国立高等音楽院修士課程をブルミエ・プリ(一等賞)およびフランソワーズ・ドゥロー賞を受賞し首席で卒業後、同音楽院第三課程アーティスト・ディプロマコースを修了。2016年ザルトツブルク・モーツァルテウム音楽大学院アーティストコース修了。

パリを拠点に、フランス、イタリア、スペイン、アメリカなど各国でリサイタルやコンツェルト、室内楽の公演を行い、音楽祭に招待されるなど、精力的に演奏活動を行っている。フランスにおいては、2013年パリOECD第900回総会記念コンサートに出演、2015年在仏日本大使館にてリサイタルを開催、2016年にはパリのサル・ガヴォーにてチャイコフスキーの協奏曲を演奏し、大好評を博す。

国内では、これまで全国各地でのリサイタルや音楽祭に出演するほか、広島交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団、オーケストラアンサンブル金沢、ポーランド放送室内合奏団などと共演している。

2004 年 アカシア賞受賞。

2006 年 パガニーニ国際ヴァイオリンコンクールで第 3 位受賞(日本人最高位)。

2011 年 中国電力エネルギー音楽賞受賞。

2011 年 ミラノ Società Umanitaria 国際音楽コンクール第 1 位。

2013 年 デュオハヤシ国際コンクール第 1 位。

2016 年 ドミニク・ペカット国際ヴァイオリンコンクール審査員満場一致の
第 1 位および聴衆賞を受賞。

これまでに、ロームミュージックファンデーション、明治安田生命クオリティオブライフ奨学生、ヤマハ
音楽支援制度留学奨学生として研鑽を積む。

ヴァイオリンを長谷川夕子、前橋汀子、工藤千博、原田幸一郎、ロランドガレイユ、パトリス・フォンタ
ナローザ、ピエール・アモイヤルの各氏に師事。

使用楽器は 1710 年製ジュゼッペ・ガッルネリ(フィリウス・アンドレア)。